

令和元年度(平成30年度実績事業)

下田市教育委員会自己点検・評価報告書

令和元年11月

下田市教育委員会

目 次

はじめに	1
教育委員会点検・評価の概要	
1 点検・評価の趣旨	2
2 教育委員会会議の開催状況	3
3 教育委員会会議での審議状況	3～5
4 教育委員会会議以外の活動状況	5
5 施策ごとの取組状況	6～8
点検・評価シート	9～46
6 有識者委員会	47
7 有識者委員会の意見	47～48
8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱	49～50

はじめに

下田市教育委員会の自己点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業について1年間の活動状況の課題や取組の方向性を、自ら点検及び評価を行い、有識者による外部の知見を入れることで、今後の効果的な教育行政の一層の推進を図るものです。

この結果を、第4次下田市総合計画に定められた基本目標に基づく今後の施策に十分に活かし、「人が輝くまちづくり」を担う就学前教育・学校教育及び生涯学習における教育学習環境を更に充実し、活力ある教育行政を推進することで下田市が目指すまちづくりの一役に努めてまいります。

また、平成27年度に策定した下田市教育大綱における本市教育の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり」』を推進してまいります。

下 田 市 教 育 委 員 会

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

下田市教育委員会教育委員名簿

（平成30年度当初 在籍委員）

職 名	氏 名	任 期
委員(教育長職務代理者)	田 中 とし子	H29. 3. 15～H32. 3. 14
委 員	渡 邊 亮 治	H26. 12. 13～H30. 12. 12
委 員	西 堀 政 幸	H28. 12. 15～H32. 12. 14
委 員	天 野 美 香	H25. 12. 14～H33. 12. 13
教 育 長	佐々木 文 夫	H27. 7. 21～H30. 7. 20

※ 平成30年7月21日 佐々木文夫教育長再任

※ 平成30年12月13日 渡邊亮治委員再任

教育委員会点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

(1) 点検・評価の目的

教育委員会は、地教行法第 26 条の規定に基づき、毎年事務の管理及び執行状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図り、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに、市民に公表しています。

この自己点検・評価は、教育委員会の責任体制の明確化と教育行政の説明責任を果たすことを目的としています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、平成30年度に実施した事務事業について、下田市教育大綱で掲げる本市教育の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり』』を念頭におきながら、6つの目標「自分のまちや学校、自分自身に誇りをもてる「未来の人づくり」を推進します。」「「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。」「家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。」「いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。」「歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。」「市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。」に分類して、点検・評価の対象としました。

(3) 点検・評価の方法

点検・評価については、施策、事業の執行状況を明らかにするとともに、課題等を分析検討した上で、今後の対応方向を記述しました。

事業は、点検・評価シートに基づき点検・評価を行い、教育委員の評価として

- | | |
|---|-----------------------|
| A | 「十分成果が上がって良好に行われている。」 |
| B | 「成果が上がって概ね良好に行われている。」 |
| C | 「成果が十分に上がっておらず改善が必要。」 |

のいずれかの評価とその評価に基づくコメントを記載しました。

また、点検・評価の客観性の確保のため、教育に関し学識経験を有する方等外部の意見をお聞きするため、外部評価委員会を開催しました。

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、毎月 20 日以降を目処に月 1 回の定例会を開催する計画を立て、必要に応じて臨時会を開催しています。

平成 30 年度は、13 回（定例会 12 回、臨時会 1 回）会議を開催しました。

定例会	臨時会	合計
12 回	1 回	13 回

3 教育委員会会議での審議状況

地教行法第 25 条及び下田市教育委員会会議規則(平成 27 年下田市教育委員会規則第 2 号)に基づき、平成 30 年度は 57 件の議案を審議しました。

区分	番号	議案名
4 月定例会 4 月 25 日(水)	報第 1 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市公民館長の任命について)
	報第 2 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立図書館協議会委員の任命について)
	報第 3 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市社会教育委員の委嘱について)
	報第 4 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市公民館運営審議会委員の委嘱について)
	報第 5 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市スポーツ推進委員の委嘱について)
	報第 6 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市青少年補導センター補導員の委嘱について)
	報第 7 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立学校統合準備委員会委員の委嘱について)
	報第 8 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市学校給食運営協議会委員の委嘱について)
	報第 9 号	専決処分の承認を求めることについて (下田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について)
	議第 19 号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
5 月定例会 5 月 23 日(水)	議第 20 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (中学校教育用パソコン購入契約の締結について)
	議第 21 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について)
	議第 22 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市立小・中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について)
	議第 23 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市いじめ防止条例の制定について)
	議第 24 号	下田市いじめ問題対策連絡協議会運営要綱の制定について

区 分	番 号	議 案 名
5月定例会 5月23日(水)	議第25号 議第26号	下田市いじめ問題対策専門委員会運営要綱の制定について 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
6月定例会 6月20日(水)	議第27号 議第28号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成30年度下田市一般会計補正予算第2号：教育委員会) 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
7月定例会 7月24日(火)	議第29号 議第30号 議第31号	平成31～32年度使用の中学校用「特別の教科道徳」の教科用図書の採 択について 平成31年度使用の小学校用「特別の教科道徳」を除くすべての教科用 図書の採択替えについて 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
8月定例会 8月22日(水)	報第10号 議第32号 議第33号 議第34号 議第35号	専決処分の承認を求めることについて (平成30年度下田市一般会計補正予算第3号：教育委員会について) 下田市教育委員会事務局職員の人事異動について 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市子どものための教育・保育に関する利用者負担額を定める条例 の一部を改正する条例の制定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成30年度下田市一般会計補正予算第4号：教育委員会) 下田市学校給食費に関する規則の一部を改正する規則に制定について
9月定例会 9月26日(水)	議第36号	下田市学校給食調理配送等業務委託事業者選定委員会設置要綱の一部 を改正する要綱の制定について
10月定例会 10月30日(火)	報第11号 議第37号	専決処分の承認を求めることについて (下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会委員の委嘱につい て) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成30年度下田市一般会計補正予算第6号：教育委員会)
11月臨時会 11月12日(月)	議第38号	下田市立学校統合準備委員会からの第一次答申に伴う教育委員会の方 針決定について
11月定例会 11月21日(水)	議第39号 ～ 議第43号 議第44号 議第45号 議第46号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (賀茂地域の広域連携に係る連携協約の一部を変更する協約の締結につ いて) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市立小・中学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する 条例の制定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成30年度下田市一般会計補正予算第7号：教育委員会) 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
12月定例会 12月21日(金)	議第47号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

区 分	番 号	議 案 名
1月定例会 1月28日(月)	議第1号	下田市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
	議第2号	下田市いじめ問題対策専門委員会委員の委嘱について
	議第3号	下田市立小・中学校児童生徒の通学する学校指定規則の一部を改正する規則の制定について
	議第4号	下田市立学校体育施設の開放に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	議第5号	下田市立学校処務規程の一部を改正する規程の制定について
2月定例会 2月19日(火)	報第1号	専決処分の承認を求めることについて (平成30年度下田市一般会計補正予算第8号：教育委員会について)
	報第2号	専決処分の承認を求めることについて (下田市いじめ問題対策連絡協議会運営要綱の一部を改正する要綱の制定について)
	議第6号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について)
	議第7号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について)
	議第8号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成30年度下田市一般会計補正予算第9号：教育委員会)
	議第9号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成31年度下田市一般会計予算：教育委員会)
3月定例会 3月22日(金)	議第11号	下田市教育委員会事務局職員の人事異動について
	議第12号	社会教育指導員の任命について
	議第13号	下田市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
	議第14号	下田市学校教育の基本方針について
	議第15号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

①基本方針 2件 ②議案の原案の決定 19件 ③規則及び規程の改定又は改廃 10件 ④人事 15件
⑤準要保護児童生徒の認定 7件 ⑥その他 4件 合計 57件

4 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 第59回静岡県市町教育委員会研修会

開 催 日	場 所	出 席 者
12月19日(水)	ホテルセンチュリー静岡	田中とし子委員、天野美香委員

※内容：静岡県教育委員会の施策について、酒井勇介氏講演、各市町の教育の話題について(分科会)

(2) 教育委員会点検評価有識者委員会

開 催 日	場 所
10月30日(火)	下田市立中央公民館 大会議室

(3) 下田市総合教育会議

開催日	場所
6月11日(月)	下田市役所 第1委員会室
11月12日(月)	下田市役所 中会議室

5 施策ごとの取組状況

教育委員会では、それぞれの基本目標を実現させるための施策の項目に対応する事業について点検・評価シートを作成し内部で点検・評価を行い、その後外部評価をいただき、意見をまとめました。

目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	確かな学力を育成する授業の推進	市指定研究校への支援 市研修主任研の開催 校内研修への支援	9
	生徒指導が機能する授業の推進	市生徒指導研の開催 授業づくり支援 市初任研の開催	10
	特別支援教育の充実	児童・生徒適応指導事業 特別支援教育体制推進事業	11
「豊かな感性」を育む教育活動の推進	下田の歴史と文化、自然を学ぶ学習の推進	体験プログラム事業	12
	コミュニケーション能力の素地を養う英語教育の推進	英語力向上プロジェクト事業 中学校ALT(外国人講師等) 小学校外国語活動へ社会人活用 ニューポート市中学生派遣事業 英語検定受検推進事業	13
	子ども一人ひとりの心に響く道徳教育の充実	道徳教育の充実	14
「豊かな感性」を育む教育活動の推進	感性を磨き、豊かな心を育てる読書活動の充実	学校司書の配置 新刊図書の購入	15
「開かれた学校づくり」の推進	内と外に開かれた信頼される学校づくりの推進	学校公開と学校評価による教育活動の改善 地域の人材活用	16
	関係機関との連携体制の構築と子どもを守る体制の強化	関係機関との連携 “チーム学校”の推進	17
		放課後児童クラブ	18
	幼保こども園・小・中・高の連携の強化	幼保こども園との連携と 幼小の接続 小中連携	19

目標実現のための施策		事業等	Page
「安心・安全な環境づくり」の推進	自助、共助の力を育成する 防災教育、安全教育の充実	地域と連携した防災・防犯教育	20
	人権意識を育む 学校づくりの推進	不登校等対策連絡協議会 市初任研修 市いじめ問題対策連絡協議会 人権擁護委員による 人権の花運動・学校訪問 全国中学校人権作文コンテストへの参加	21
教育施設・環境整備の推進	児童生徒のよりよい学びに向けた学校再編整備	中学校再編整備事業	22・ 23
	安心・安全な給食を提供する 学校給食センターの運営	学校給食管理運営事業	24
	ICTを活用した授業実践を行う体制の整備	教育委員会事務局総務事務 小学校及び中学校教育振興事業 奨学振興事業	25
	既存学校施設整備	小学校及び中学校管理事業 単独学校施設災害復旧事業 下田市学校施設整備基金条例	26

目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
就学前教育の充実	幼保再編後の子育て支援の 充実と地域との連携	公立保育所・認定こども園・幼稚園 の管理運営事業、民間保育所事業	27
		子育て支援事業	28
	教職員の資質と能力の向上に 向けた研修の充実	園内研修の実施 園外研修への派遣	29
施設・環境整備の推進	認定こども園を核とした 施設・環境整備	公立保育所管理運営事業 幼稚園管理事業	30

目標3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。

目標実現のための施策		事業等	Page
青少年活動の充実	地域活動への参加や地域との 交流を深める機会の充実	青少年海の家管理運営事業 青少年健全育成事業	31
	文化や芸術、スポーツなどの 青少年活動との連携	青少年健全育成事業	32
	家庭、地域、学校との連携を 図った非行防止に向けた運動 の推進	青少年健全育成事業	33

目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。

目標実現のための施策		事業等	Page
生涯学習活動の推進	市民のニーズに合った 学習プログラムの提供	成人活動推進事業 公民館活動推進事業	34
	図書館ボランティアとの連携 による図書館サービスの充実	図書館管理運営事業	35
	社会教育団体などの 自主的学習活動の支援	社会教育団体などの 自主的な学習活動の支援	36
学習施設の再編、整備	新たな図書館の建設	図書館協議会等	37
	地域の実情に見合った 公民館の再編整備	公民館管理運営事業	38

目標5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
文化施設の整備	市民文化会館などの施設の 改修	市民文化会館管理運営事業	39
文化・芸術活動の活性化	文化事業や講座の開催 自主的な文化活動への支援	芸術文化振興事業	40
文化財の保存、 継承と活用	国、県、市の指定文化財の 保存と活用	芸術文化振興事業	41
	民俗芸能などの地域文化の 継承		
	埋蔵文化財の保護・保全		
郷土資料の保存、 継承と活用	郷土資料の保存や研究と 市史編纂事業の実施 郷土の文化財などの 学習活動への支援	市史編さん事業	42

目標6 市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。

目標実現のための施策		事業等	Page
施設の有効活用	学校施設の一般開放	保健体育総務事務	43
	利用者のニーズに応える 施設整備	下田市民スポーツセンター 管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	44
スポーツの振興	市民が気軽に参加できる スポーツイベントの開催	社会体育活動推進事業	45
	NPO法人などと連携した 総合的なスポーツの振興	社会体育活動推進事業	46

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○確かな学力を育成する授業の推進	
事業等	市指定研究校への支援、市研修主任研の開催、校内研修への支援	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【市指定研究校への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年11月9日(金) 下田市教育研究会指定研究発表（大賀茂小）市内全教職員参加 <p>【市研修主任研の開催 年3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の市の重点と各校の校内研修について 魅力ある授業づくりについての協議 市指定研究発表のサポート（司会、記録等） <p>【校内研修への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導主事による各小中学校の訪問と校内研修についての指導・助言 		
検 証	<p>下田市教育研究会指定研究発表では、大賀茂小学校が3年間にわたる研究実践の成果を発表した。大賀茂小学校は、「対話を通して考え、主体的に学び合う子」を研究主題として、他者との関係による学びの深まりと主体的な学びに視点をあてた授業改善の在り方を提案した。発表会では市内の教職員が一堂に集い、確かな学力を育むために研修を深めた。</p> <p>市研修主任研では、子どもが主体的に学ぶ授業や学びの実感を積み重ねる授業を目指して、各校の研修主任が協議し、計画策定した。子どもの問いや問題解決的な学習を大切に授業づくり、子どもの事実をもとに全員参加で進める研修の推進など、各校の校内研修の充実が図られた。市内小中学校校内研修一覧を作成し、互いの子ども観や授業観、具体異的な授業改善の取組を共有するなど、市内教職員の資質能力の向上を目標に実践した。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>新学習指導要領（令和2年度：小学校、令和3年度：中学校全面実施）の趣旨を踏まえ、子どもの主体的・対話的で深い学びが実現するよう、学び手の視点に立った授業改善を進める。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>各校において、熱心に授業改善の取り組みが進められている。今後も、児童生徒一人ひとりが学びを実感する授業づくりに取り組み、未来を切り拓く子どもを育成していきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○生徒指導が機能する授業の推進	
事業等	市生徒指導研の開催、授業づくり支援、市初任研の開催	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【市生徒指導研修会の開催 年6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の生徒指導担当者による情報交換 ・子ども一人ひとりを理解し、成長を支える生徒指導の推進 ・いじめ・不登校対策連絡協議会を兼ねた情報交換 ・新中学校統合を見据えた生徒指導関係の協議 <p>【授業づくり支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による授業参観及び子ども理解を主眼においた事後研修会 ・学級づくりや人間関係づくりを基盤とした授業についての指導・助言 <p>【市初任者研修会 年4回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級づくりを基盤とした授業についての指導・助言 ・先輩授業の参観をきっかけとした、学級集団づくりについての協議
検 証	<p>市生徒指導研修会では、問題行動や不登校、いじめ、気になる児童生徒について情報交換するとともに、「子ども一人ひとりを理解し、成長を支える」という視点で指導の方向性や具体的な関わりを共有した。また、不登校児等対策連絡協議会や南伊豆町との合同生徒指導研等を通して、子どもの実態を的確にとらえ、日々の授業づくりに反映した。いじめ問題については、いじめ防止対策法に基づく体制整備を進め、毎月県に提出する月例報告に市独自の用紙を取り入れるなど、“気になる子”についての情報共有に努めた。</p> <p>各校への授業づくり支援では、指導主事が訪問を行う際、「生徒指導が機能する授業」「一人ひとりを大切にしたい授業」を念頭に助言を行い、子ども理解を中心に据えた授業づくりに取り組んだ。</p> <p>市初任者研修会では、日頃の授業づくりや生徒指導上の諸問題について悩みを語り合い、よりよい解決策を探るとともに、先輩の授業を参観する中で、生徒指導が機能する授業や互いに支え合う学習集団づくりについて学んだ。</p>
今後の課題 方 向 性	<p>確かな子ども理解のもと、互いに支え合う学級づくりを基盤として、多様な見方・考え方を受け止め、尊重する授業づくりを進める。</p>
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	<p>現在、様々な家庭環境や生育歴、背景を抱えた子どもたちが小中学校に通っている。そうした子どもたち一人ひとりを的確にとらえ、あたたかい雰囲気の中で安心して学ぶことができる授業づくりや学級づくりに努めたい。</p>

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○特別支援教育の充実	
事 業 等	児童・生徒適応指導事業、特別支援教育体制推進事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【支援員等の効果的な配置：臨時雇賃金 19,223 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員 18 名 <p>【市巡回相談等の実施：謝礼 385 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育相談員（臨床心理士）による巡回相談（年 16 回実施） ・市就学相談委員会専門部会による幼保こども園の訪問 <p>【幼児ことばの教室及び適応指導教室の運営：臨時雇賃金 3,066 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児ことばの教室指導員 1 名 ・適応指導教室指導員 3 名 <p>【特別支援教育就学奨励費：981 千円】</p>
検 証	<p>特別支援教育支援員18名の配置を行った。各校において特別な配慮を要する児童生徒が増加していることから、各校の実情に応じて個に応じた効果的な支援を進めることができた。特別支援教育の充実を図ることで、発達に課題をもつ児童生徒への対応や学校生活の質の向上、学習活動の充実等、子ども一人ひとりの思いや保護者の願いに寄り添った教育活動に取り組んだ。</p> <p>また、市単独の予算措置により、特別支援教育相談員（臨床心理士）を中心とした巡回相談を年16回実施し、発達に課題をもつ幼児・児童・生徒への支援に取り組んだ。あわせて、就学に向けて、市就学支援委員会専門部会による幼保こども園への訪問を実施し、新学齢児の実態把握と適切な支援を行った。</p> <p>幼児ことばの教室では、幼保こども園や市民保健課健康づくり係、市福祉事務所等と連携しながら該当保護者に助言を行い、就学前に適切な支援がなされるよう努めた。適応指導教室では、指導員3名の配置等を行い、学校生活に適応できず不登校傾向にある児童生徒に対して、適応状況の改善に取り組んだ。</p> <p>なお、平成29年4月に新設された稲生沢小発達通級（自AL）も軌道に乗り、下田地区を知的の特別支援の拠点、稲生沢地区を自・情の特別支援の拠点とすることで、市の特別支援教育体制が整備された。</p>
今後の課題 方 向 性	各校の実態に応じた支援員の配置をさらに進め、きめ細かな支援に取り組むとともに、早期からの特別支援教育体制を確立する。
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	特別支援教育は、今後もさらに需要が高まり、対応が必要になる。市費による支援員等を適切に配置するとともに、効果的な支援の実現や特別支援の確立を進めたい。

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○下田の歴史と文化、自然を学ぶ学習の推進	
事業等	体験プログラム事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【体験プログラム事業：3,250千円】		
	稲梓小	民泊体験(生小朝小合同)、ウナギ漁、鮎友釣り、稲作体験等	
	稲生沢小	民泊体験(梓小朝小合同)、椎茸菌打ち、ツリークライミング	
	白浜小	サーフィン、シーカヤック、魚釣り、ジオサイト教育等	
	浜崎小	シーカヤック、シュノーケリング、ジオサイト教育等	
	下田小	水族館・寝姿山見学、陶芸教室、竹オブジェ、和菓子作り等	
	大賀茂小	稲作体験、みかん狩り、ジオサイト教育、陶芸教室等	
	朝日小	民泊体験(梓小生小合同)、ジオサイト教育、干物作り体験等	
	稲梓中	稲作体験、わら細工教室、シーカヤック体験	
	稲生沢中	シーカヤック体験、地域学習	
	下田東中	サーフィン、SUP、シーカヤック、ライフセービング等	
	下田中	シュノーケリング、陶芸体験、福祉体験、職場体験等	
海洋アクティビティ (白小・浜小・東中)	下田海中水族館見学(バックヤード等)、海洋生物講演会		
検 証	<p>地域の「人、もの、こと」との積極的なかかわり合いを大切にし、地域に根ざした多様な自然体験・社会体験活動に触れるため、体験プログラム事業を実施した。市内全ての小中学校で実施し、地域の体験を通じてたくさんの感動が生まれるとともに、児童生徒一人ひとりの豊かな感性を育むことにつながった。</p> <p>民泊体験では、中学校統合を見据えた学校間交流の場としても活用した。また、30年度から海洋アクティビティとして、白浜小、浜崎小、下田東中をモデル校に指定し、下田の海に特化した体験学習を実施した。</p>		
今後の課題 方向性	多様な地域活動に触れるための機会の増加と、伝える側の人材育成。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	下田市の恵まれた自然や歴史・文化を生かした体験学習を通じ、児童生徒の郷土を愛する心を育成するよう、より一層充実していきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○コミュニケーション能力の素地を 養う英語教育の充実	
事 業 等	英語力向上プロジェクト事業、中学校 A L T (外国人講師等)・小学校外国語活動へ社会人活用、ニューポート市中学生派遣事業、英語検定受検推進事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【英語力向上プロジェクト事業：1,500 千円】</p> <p>○春の交流（平成 30 年 5 月 17 日(木)～19 日(土)＜稲生沢小＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船事前交流会（学生による外国語活動等）、黒船交流会（水兵さんとの黒船交流会等）、黒船ボランティアガイド（水兵さんに下田の史跡を案内） <p>○秋の交流（平成 30 年 9 月 3 日(月)～5 日(水)＜白浜小交流及び講演会＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による英語活動 ・給食、昼休みにおける児童との交流 ・英語力向上プロジェクト推進委員会及び講演会開催 <p>○秋の交流報告会（平成 30 年 10 月 31 日＜玉川大学＞）</p> <p>【中学校 A L T ・小学校外国語活動社会人活用：5,229 千円】</p> <p>小中学校 11 校全てに指導助手（地域の社会人活用）及び A L T を派遣配置。</p> <p>【ニューポート市中学生派遣事業：1,467 千円】</p> <p>中学生 4 名をニューポート市へ派遣（平成 30 年 7 月 11 日(水)～19 日(木)）。</p> <p>【英語検定受検推進事業：463 千円】</p> <p>中学生 164 名に対し、英語検定受検料に対する補助金を交付。</p>		
検 証	<p>英語力向上プロジェクト事業において、玉川大学と連携し、春は稲生沢小、秋は白浜小を担当校として（当初予定していた稲生沢小は台風の為次年度へ）、外国語活動の実践に取り組んだ。子どもたちの英語に対する興味関心を高めるとともに、キャリア教育の視点からも貴重な機会となった。</p> <p>中学校 A L T ・小学校外国語活動へ社会人活用については、専門性を活かした指導の充実を図るとともに、教員へのサポートを進め、新学習指導要領全面实施を見据えた小学校外国語活動や中学校英語科の授業の充実に取り組んだ。</p> <p>英語検定受検推進事業は、英語検定受験費用を軽減するとともに英語学習の機会を増やし、英語検定を通じて英語力を伸ばす一助となった。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>今後も玉川大学との連携を継続し、英語教育の充実と国際感覚豊かな子どもの育成を進めたい。また、中学生対象の英語検定受検補助金制度の拡充を行い、更なる英語教育の充実を図る。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>英語教育の充実やグローバル人材育成の重要性はますます高くなっている。今後も具体的な取組をより一層充実させていきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○子ども一人ひとりの心に響く 道徳教育の推進	
事 業 等	道徳教育の充実	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【道徳教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領全面实施を見据えた、「考え、議論する道徳」の授業づくりの推進 ・教育活動全体を通じた豊かな心を育む道徳指導の推進 		
検 証	<p>平成 27 年 3 月の学習指導要領の一部改正により、小学校では平成 30 年度から実施となった「特別の教科道徳」について、具体的な指導方法や評価に関する情報を提供するとともに、各校で研修に取り組んだ。</p> <p>中学校では平成 31 年度から新学習指導要領による「特別の教科道徳」の指導が必要となるため、小学校と同様に、具体的な指導方法や評価に関する理解を深めた。</p> <p>小中ともに、「特別の教科 道徳」の授業づくり及び授業改善が課題になっていることから、具体的な授業のイメージや評価の在り方、通信票や指導要録への記載の仕方など、市教委から情報を提供し、子ども一人ひとりが“自分事”として道徳的諸価値について考えるよう、取組を進めた。</p> <p>道徳教育は教育活動全体で行われる必要があることから、各校で全体計画や別葉を作成し、道徳教育の充実に取り組んだ。各校において、児童生徒の実態をもとに、日々の学校生活で場面を捉えて指導したり、従来の道徳授業を工夫したりしながら、子どもたちの道徳性の涵養を目指して取り組んだ。</p>		
今後の課題 方 向 性	「特別な教科道徳」について理解を深めるとともに、具体的な指導や評価方法について実践を積み重ね、「考え、議論する道徳」の授業づくりを進める。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	子どもたちの道徳性を養うことは、変化が激しく価値観が多様化する現代社会を生きていく上で必要なことである。学習指導要領の一部改正を受け、適正な指導が行われるよう具体的な取組を進めたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○感性を磨き、豊かな心を育てる 読書活動の充実	
事業等	学校司書の配置、新刊図書の購入	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【学校司書の配置 小学校7校を巡回：臨時雇賃金 1,435千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書1名配置 ・市内全小学校（巡回）における学校司書による読書環境の充実 <p>【新刊図書の購入：図書購入費 2,312千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に応じた優良図書の購入 ・読書感想文推薦図書の購入 		
検証	<p>学校司書1名を任用し、小学校7校を巡回訪問することで、各校における読書環境の充実に取り組んだ。</p> <p>各校の実態に応じて、学校と学校司書に各校とが連携し、読書活動の充実に努めた。主な活動として、発達段階に応じた優良図書の紹介、掲示物の作成等図書室の環境整備、委員会や担任等と連携した読み聞かせの実施、新刊図書購入時のアドバイス、図書館の使い方についての指導等に取り組んだ。学校司書が専門性を生かして活動を進めることで、各校における読書活動が充実した。</p> <p>専門性が必要となる一人職であることや、研修の機会が少ない実情を踏まえ、さらに専門性を高めるため、学校司書が読書指導にかかわる研修会に参加し、研修会で得られたことを各校に還元した。</p> <p>読書環境の充実のためには、新刊図書の購入は必要不可欠であることから、読書感想文推薦図書を全校分購入したり、子どもたちにとって魅力的な新刊図書を購入したりする等、各校の学校図書館の蔵書充実に取り組んだ。</p>		
今後の課題 方向性	学校司書の任用を継続・拡大し、市内全小中学校における読書環境を充実させる。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	読書は子どもたちの心を耕し、豊かな感性を育むことにつながる。調べ学習等、教科等の学習を充実させるためにも効果的であることから、専門的な知識をもった学校司書の配置及び読書指導の充実を図っていきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○内と外に開かれた信頼される学校づくりの推進	
事業等	学校公開と学校評価による教育活動の改善、地域の人材活用	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【学校公開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等による自校の教育活動についての発信 ・積極的な学校行事の公開や一日参観等の実施 <p>【学校評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者を対象とした学校生活アンケートの実施 ・学校生活アンケートの結果をもとにPDCAを機能させた教育活動の改善 ・学校自己評価及び学校評議員等による学校関係者評価の実施 <p>【地域の人材活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能教科等における地域の人材活用 ・総合的な学習における地域の専門家の活用
検 証	<p>学校行事や一日参観、総合的な学習の時間の発表等、積極的に学校を保護者や地域に公開した。保護者や地域の学校に対する関心は高く、多くの保護者や地域の方が学校の様子を参観する姿が見られた。また、各校の創意工夫により、学校だより等で子どもの様子や学校の現状、教育活動のねらい等を発信し、地域との連携に努めた。学校の教育活動に協力したいという地域の思いは各校で見られ、それぞれの学校で地域の教育力を生かした活動につながった。</p> <p>学校評価では、どの学校でも年2～3回児童・保護者を対象とした学校生活アンケートを実施し、その結果を各家庭や地域に還すとともに、全職員で確認し、具体的な解決策を探った。また、学校自己評価を進めるだけでなく、学校評議員や地域の有識者による学校関係者評価を実施し、教育活動の改善に取り組んだ。</p> <p>各校の教育活動の特色を生かし、地域の専門家を招いての稲作活動や教科等相談員を活用した音楽、書写、総合的な学習を実施した。地域人材の活用を通して、開かれた学校づくりを実施した。</p>
今後の課題 方向性	地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育活動」を実現する体制づくりを進める。
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コメント	保護者も地域も自分たちの学校のために協力したいと考えている。教育活動の更なる充実を進めるためにも、社会に開かれた学校づくりを推進したい。

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○関係機関との連携体制の構築と子どもを守る体制の強化	
事業等	関係機関との連携、“チーム学校”の推進	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県賀茂児童相談所、市福祉事務所、市民保健課等との連携 ・ 市要保護児童対策協議会及び母子連絡会での情報共有 ・ 下田警察署との連携 <p>【“チーム学校”の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SC及びSSW（県任用）の活用 <p>* SC：スクールカウンセラー、SSW：スクールソーシャルワーカー</p>		
検証	<p>虐待等から子どもを守るため、賀茂児童相談所や福祉事務所と連携しながら、情報を共有し、児童生徒の生命や安全を守るよう努めた。</p> <p>近年、子どもの貧困や発達に課題をもつ児童生徒による問題行動や不登校、学校生活への不適應も問題になっていることから、市民保健課及び福祉事務所と情報共有に努め、早期からの適切な就学支援を進めることで、一人ひとりの子どもの成長を支えてきた。育児支援や乳幼児の虐待、療育等の問題については主に母子連絡会において、学齢児の虐待や療育、不登校等については主に要保護児童対策協議会において、市教委担当者や学校・園の代表が情報交換をし、子どもや家庭の実態把握と効果的な対応に取り組んだ。</p> <p>児童生徒の問題行動については、警察が関わる案件は少なかったものの、下田警察署と情報共有しながら対応した。</p> <p>県費による配置だが、現在市内全校にSC及びSSWが配置（中学校区等）されている。市教委としてSSWと定期的に連絡会をもったり、SCを交えてケース会議を実施したりするなど、学校のチーム力向上を図った。</p>		
今後の課題 方向性	<p>学校だけでは解決が難しい事案が増えていることから、外部機関と連携しながら対応を進めるとともに、SCやSSW等を活用して“チーム学校”として子どもを守る体制を強化する。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	<p>学校教育を取り巻く諸問題を解決していくには、各関係機関との連携は必要不可欠である。開かれた学校づくりを進め、チームとして教育活動に取り組む体制づくりを推進していきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○関係機関との連携体制の構築と 子どもを守る体制の強化	
事業等	放課後児童対策事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【放課後児童対策事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田小学校放課後児童クラブ 月平均児童数 54.2 人、指導員 6 人の 1 日 4 人シフト ・稲生沢小学校放課後児童クラブ 月平均児童数 33.1 人、指導員 3 人の 1 日 2 人シフト <p>開設日：月曜日から土曜日 開設時間：（平 日） 事業終了後から午後 5 時 30 分まで （土曜日、長期休校日） 午前 8 時 30 分から午後 5 時 30 分まで</p>		
検 証	<p>保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校（1 年から 6 年）の児童を対象に遊び生活場を提供し、健全な育成を図るため、下田小学校と稲生沢小学校に「放課後児童クラブ」を開設している。</p> <p>また、平成 29 年度より実施している利用者負担額の多子世帯に対する市独自軽減措置を継続すると共に、増加するニーズに対応するため、下田小学校放課後児童クラブの支援員を増員し、2 室（定員 80 人）での実施とした。また、平成 31 年 4 月から朝日公民館で朝日小学校、大賀茂小学校の児童を対象とした放課後児童クラブを新設するための準備を実施した。将来的に下田市内全小学校区での放課後児童クラブ開設を目標に事業を推進すると共に、より利用しやすい放課後児童クラブを目指し、就学前から就学移行における子どもの成長に合わせたスムーズな支援を実施することで、子育て支援・児童の安全と健全な育成を推進した。</p>		
今後の課題 方向性	<p>指導員の人材確保という大きな課題は有るが、第 2 期子ども・子育て支援事業計画期間内における全小学校区での放課後児童クラブ開設を目標に掲げ、事業の推進を図る。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	<p>「小 1 の壁」を打破するため、目標である全小学校区での放課後児童クラブの開設に向け推進していきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○幼保こども園・小・中・高の連携の強化	
事 業 等	幼保こども園の連携と幼小の接続、小中連携	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【幼保こども園の連携と幼小の接続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保こども園の子供間、職員間の交流 ・幼保こども園と小学校との円滑な接続 <p>【小中連携の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区単位での合同研修会の実施 ・小中連携の強化 		
検 証	<p>平成 29 年度よりモデル地区として賀茂地域に幼児教育アドバイザーが配置され、市内各園及び小学校を訪問するとともに、園・校内研修支援に取り組んできた。平成 30 年度には賀茂地域 1 市 5 町が共同設置する形に移行し、幼児教育のさらなる体制構築に努めた。とくに下田幼、認定こども園、下田保、下田小については、県より研究推進園・校として指定を受け、実践を重ねるとともに、2 月に研究発表を行った。研究をとおして、幼児教育施設における保育の質の向上と、幼小の円滑な接続に向けて、保育者及び教職員の意識が高まった。</p> <p>小中の連携については、各校の創意工夫により、中学校教員による出前授業や体験入学時の部活動体験、互いの研究授業の参観等を通して、中 1 ギャップが生じないよう取り組んだ。また、各中学校区で小中合同研修会を開催し、子供の実態把握に努めるとともに、育てたい子供像や大切にしたい家庭での生活習慣等を共有した。各中学校区で、よりよい子どもの成長を願い、ノーゲームデーや業間運動の実施など、その学校の実態に応じた取組を進めてきた。令和 4 年にひかえた中学校統合を見据えた取組も含め、小中の連携は着実に進んできたと言える。</p> <p>今後さらに幼保・小・中・高の連携を強化するためには、私立保育園を含めた 4 園と 7 小学校との交流をさらに進めるとともに、中から高への接続も含め、さらに長いスパンで連携を図り、子供たちの成長を支える必要がある。やがて来る新中学校統合を見据え、これまで以上に幼保こ・小・中・高で願う子供の姿を共有し、具体的な取組を進めたい。</p>		
今後の課題 方 向 性	幼保こども園、小学校、中学校、高校の縦の接続と横の連携を意識し、中学校統合も見据えた、具体的な児童生徒の交流や職員の交流を推進する。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	子どもの成長は幼保こども園から小学校、中学校、高校と切れ目なくつながっている。子どものよりよい成長を支えるためにも、更に幼保こ小中高の連携強化を推進していきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「安心・安全な環境づくり」の推進	○自助、共助の力を育成する防災教育、安全教育の充実	
事業等	地域と連携した防災・防犯教育	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【地域と連携した防災・防犯教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が連携した防災教育の実施 ・学校や地域の実情に応じた防災訓練等の見直しと効果的な実施 ・津波を想定した各校の避難経路の確認 ・登下校防犯プランに基づく通学路の合同点検の実施 		
検証	<p>昨年度に引き続き、それぞれの学校・地域の実情に応じた防災教育に力を入れた。各校の創意工夫のもと、県賀茂振興局危機管理課と連携した取組を進める等、防災教育の充実に努めた。</p> <p>また、津波や東南海トラフ地震を想定し、各校において避難経路や学校防災マニュアルの見直しに取り組んだ。それに伴い地域と共に備蓄品確保や避難訓練のあり方を考えるなど、安全かつ安心できる学校づくりを目指した。</p> <p>各小学校においては、下田警察署、下田土木事務所、市建設課・防災安全課及び地域の代表者による通学路安全点検を実施し、14箇所危険・要注意箇所として確認し、共通認識を得られた。</p>		
今後の課題 方向性	津波や東南海トラフ地震等、大災害の発生に備え、安全かつ安心できる学校づくりを推進するとともに、地域の見守り体制などのソフト的施策の強化及び通学路における防犯機能の強化を図る。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	東日本大震災等、全国でおきている大災害や災害時の対応を教訓とし、児童生徒の安全を守る防災教育の充実、安全な学校施設の整備、緊急時の体制づくり等、安全かつ安心できる学校づくりを努めたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「安心・安全な環境づくり」の推進	○人権意識を育む学校づくりの推進	
事 業 等	不登校児等対策連絡協議会、市初任者研修、市いじめ問題対策連絡協議会、人権擁護委員による人権の花運動・学校訪問、全国中学生人権作文コンテストへの参加	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【不登校児等対策連絡協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内児童生徒の不登校やいじめの状況についての情報共有及び協議 <p>【市初任者研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の観点からの指導・助言 ・老人介護施設での社会体験 <p>【人権擁護委員による人権の花運動・学校訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の花（ひまわり）の栽培及び学校現場における現状把握 <p>【全国中学生人権作文コンテストへの参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国中学生人権作文コンテストへの応募 		
検 証	<p>平成30年10月22日に市生徒指導研修会を兼ね、不登校児等対策連絡協議会を開催した。民生委員・児童委員や各区長とともに、市内の小中学生の不登校やいじめの状況について情報共有を行い、様々な立場から市内の児童生徒一人ひとりの人権を守るよう取り組んだ。</p> <p>また、いじめ防止対策法に基づき整備を進めてきた市のいじめ問題に対する体制が、「下田市いじめ防止条例」の制定に伴って整備され、平成31年2月7日には「第1回下田市いじめ問題対策連絡協議会及び下田市いじめ問題対策専門委員会」の開催に至った。下田市各小中学校の現状を把握するとともに、いじめ問題の未然防止と早期対応について協議を深めた。</p> <p>市初任者研修では、新規採用された教員に人権教育の観点から指導・助言をするとともに、老人介護施設での社会体験を実施し、人権感覚の育成に努めた。</p> <p>また、人権の花（ひまわり）の栽培や全国中学生人権作文コンテストへの応募を通じ、人権についての理解を深めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	教育活動全体を通じて児童生徒の人権感覚を育てるよう意図的に教育活動に取り組むとともに、教職員の人権感覚の向上に努める。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	やがて社会に出て、一人の社会人として生きていく子どもたちに、人権感覚を育ててほしい。そのためにも、教職員が人権感覚を身に付け、日々の教育活動において子どもたちと関わることを期待している。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○児童生徒のよりよい学びに向けた 学校再編整備	
事 業 等	中学校再編整備事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【中学校再編に関する取り組み】	
	下田市議会	<ul style="list-style-type: none"> ・下田市立小・中学校設置条例の一部改正条例提案可決(6月定例会) ・下田市立小・中学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正条例提案可決(12月定例会)
	下田市総合教育会議	1回開催
	下田市立学校統合準備委員会 第一次答申	新中学校校名案について 「下田市立下田中学校」
	下田市立学校統合準備委員会	4回開催
	市長と語る会	12回開催(高齢者・女性と語る会含む)
	新中学校校名募集	応募数 627 校名候補 153
	新中学校制服等展示会及び アンケート	1回目来場者数 445 アンケート回収 673 2回目来場者数 334 アンケート回収 601
<p>下田市立学校統合準備委員会委員報酬 236 千円</p> <p>新中学校整備基本計画等策定業務委託(債務) 4,401 千円</p> <p>下田中学校耐力度調査業務委託(債務) 2,052 千円</p> <p>(仮称)下田市立統合中学校設計業務委託(新規) 32,400 千円</p> <p>(仮称)下田市立統合中学校地形測量業務委託 3,132 千円</p> <p>(仮称)下田市立統合中学校地質調査業務委託 5,000 千円</p> <p>(仮称)下田市立統合中学校地質調査業務委託(その2) 998 千円</p>		
検 証	<p>平成 30 年 2 月に教育委員会の諮問機関である下田市立学校統合準備委員会(以下「委員会」という。)を設置し、下田市立中学校の学校統合について諮問を行った。委員会を 4 回開催し、11 月には、新しい中学校名を「下田市立下田中学校」とする第一次答申をまとめた。制服等についても、展示会やアンケートをそれぞれ 2 回実施し、選定作業を行うとともに、その他、校章や校歌、部活動等についても具体的な協議を順次進めた。</p> <p>学校再編に関連する条例等については、まず下田市議会 6 月定例会で、令和 4 年 4 月に 4 中学校を 1 校化し、新たな中学校を設置する条例案を提案し、続いて 12 月定例会では、新たな中学校名を「下田市立下田中学校」とする条例案を提案し、それぞれ可決された。</p> <p>新中学校整備計画等については、まず平成 29 年度から平成 30 年度にかけて、</p>	

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

検 証	<p>令和 4 年 4 月開校の(仮称)下田市立統合中学校の校舎として使用する現下田中学校建物の構造耐力、健全度、外力条件を総合的に調査する耐力度調査を実施するとともに、現下田中学校の敷地、建物配置、施設規模、インフラ条件等を整理し、基本コンセプト、導入機能、施設配置・外構計画、建築計画、仮設計画、概算事業費等を取りまとめた基本計画を策定した。</p> <p>また、平成 30 年度から令和元年度にかけて、(仮称)下田市立統合中学校設計業務委託を実施し、平成 30 年度分として基本設計を行うとともに、その他、新中学校整備に向けた地形測量、地質調査も実施した。</p>	
今後の課題 方向性	<p>中学校再編に関する具体的な協議(新しい学校のあり方、校歌、校章、通学方法等)を下田市立学校統合準備委員会を通じ進める。</p>	
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コメント	<p>過去の反省を活かし、中学校再編に関する説明等を十分に行った上で、様々な意見を広く聞き、一步ずつ着実に進めている。今後も保護者、学校、地域の声を大切にし、より良い中学校再編を推進していきたい。</p>	

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○安心・安全な給食を提供する 学校給食センターの運営	
事業等	学校給食管理運営事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>学校給食センターでは市内小中学校 11 校と県立東部特別支援学校 1 校へ給食を提供し、調理配送業務は株式会社レクトンへの業務委託により運営している。</p> <p>【債務負担行為】</p> <p>平成 27 年度 0 千円 平成 28 年度 37,800 千円 平成 29 年度 58,536 千円 平成 30 年度 58,536 千円 総 額 154,872 千円 請 負 先 株式会社 レクトン</p> <p>【給食費公会計化】</p> <p>学校給食システムにより、市において賦課・徴収業務を行っている。 学校等給食費収入済額 74,970,450 円(幼稚園等給食費を除く) 小・中学校給食費収入未済額 875,100 円(30 件) 賄材料費 77,418,730 円、388,260 円(静岡粉末茶: 補助金 386 千円) (年間 180 回 小学校 952 人分・中学校 542 人分:H30.5.1 現在) 学校給食管理システムクラウドサービス利用料: 817 千円 株式会社日立システムズ神奈川支社</p>		
検 証	<p>学校給食の公会計化に伴い、給食会計の安全性・透明性・公平性の向上を図るとともに、教職員の多忙化解消を目指し、学校給食管理システムを導入し、学校給食費の公会計化完全実施により、学校・保護者が徴収していた学校給食費について、市が賦課・徴収を行うこととし、口座振替又は申し出による児童手当からの徴収とした。</p> <p>静岡茶愛飲推進事業費補助金を活用し、粉末茶を全児童・生徒へ配付にした。地産地消週間やふるさと給食の日などを活用し、地元の食材を使った献立に努めた。</p>		
今後の課題 方向性	給食会計の公会計化による適正な賦課徴収事務の執行により、給食会計の透明化を推進する。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	給食センターの運営は、委託先との連携が良好に行われていることから大きな事故や問題は発生していない。給食会計の公会計化により、学校の多忙化解消及び安心安全な給食の提供の継続と、給食を通じた食育に尽力していきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○ICTを活用した授業実践を行う体制の整備	
事業等	教育委員会事務局総務事務、小学校教育振興事業、 中学校教育振興事業、奨学振興事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【教育委員会事務局総務事務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賀茂地域校務支援共同化事業負担金 7,104 千円 <p>【小学校教育振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書指導書（電子黒板用ソフト）2,201 千円 ・パソコンネットワーク保守委託 3,215 千円 <p>【中学校教育振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書指導書（電子黒板用ソフト等）34 千円 ・パソコンネットワーク保守委託 4,259 千円 ・中学校教育用パソコン購入(132 台) 25,920 千円 <p>【奨学振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育業務委託 6,500 千円（年32回 59名受講） 		
検証	<p>学校ICT教育環境整備検討委員会及び賀茂地域校務支援事務共同化協議会それぞれで検討を進め、中学校パソコン教室のパソコン機器更新及び賀茂郡下で統一した校務支援ソフトを市内全小中学校に導入した。</p> <p>新学習指導要領改定により小学校におけるプログラミング的思考学習が導入されること、また今後IT人材不足が危惧されるなか、IT人材を育成する地方創生の取り組みとして、学校法人角川ドワンゴ学園N高等学校通信教育課程を利用し、中学生希望者を対象としたプログラミング教室を実施した。</p> <p>また各小中学校に整備されている電子黒板の電子黒板用ソフトの充実を図るとともに、パソコン教室に係る保守委託及びソフト利用料についてもパソコン環境を維持するため、事業執行をした。</p>		
今後の課題 方向性	<p>ICTの活用は、子どもたちの確かな学力の育成や、授業改善にも役立っており、更なる効果的な活用を進めていきたい。また、中学校パソコン教室の機器更新を実施し、小学校パソコン教室の機器更新に伴う機能を向上させるとともに、プログラミング教育を推進するための環境整備を図る。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	<p>学校現場におけるより充実したICT環境整備を推進していきたい。また平成30年度から実施されているプログラミング教室についての効果を期待したい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○既存学校施設整備	
事 業 等	小学校管理事業、中学校管理事業、単独学校施設災害復旧事業、下田市学校施設整備基金条例	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【小学校管理事業・中学校管理事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校防火設備改修工事(浜崎小・下田小) 13,500千円 ・浜崎小学校屋内運動場トイレ改修工事 1,606千円(助成金1,400千円) ・小学校トイレ改修工事(稲梓小・下田小・朝日小) 4,761千円 (助成金3,000千円) ・小学校屋内運動場改修工事(稲梓小・浜崎小・下田小・大賀茂小・朝日小) 19,582千円(交付金9,790千円) ・中学校トイレ改修工事(稲生沢中・下田東中) 3,991千円 ・下田中学校パソコン教室エアコン取替工事 934千円 <p>※トイレ洋式化率 33.1%(105基/317基) 参考)29年度 28.8%(92基/320基) ※小学校空調設備設置工事 163,500千円(翌年度繰越) ※浜崎小学校東館改築事業 139,000千円(翌年度繰越)</p> <p>【単独学校施設災害復旧事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田東中学校フェンス修繕 486千円 		
検 証	<p>浜崎小と下田小に対し、防火扉を防火シャッター付きに取替え、火災時の安全を確保できるように改修工事を実施した。</p> <p>防災機能強化事業として、避難所となる屋内運動場の安全を確保するため、稲梓小、浜崎小、下田小、大賀茂小及び朝日小の屋内運動場の窓ガラスに飛散防止フィルムを施工するガラス飛散防止工事を実施した。</p> <p>静岡県市町村振興協会の助成を受け、稲梓小、下田小、朝日小、稲生沢中及び下田東中のトイレ及び浜崎小屋内運動場トイレ洋式化工事を実施した。また老朽化した和式トイレを洋式トイレへと改修した。</p> <p>下田中学校のパソコン教室におけるエアコンの取替工事を実施した。</p> <p>小学校空調設備設置工事及び浜崎小学校東館改築事業については、年度内執行が困難なため翌年度に全額繰り越すものとした。</p>		
今後の課題 方 向 性	学校施設の計画的な整備を継続して進め、安全・安心で良好な学校環境を確保する。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	かねてから懸念されていた老朽化対策の一助となる基金を効果的に活用していくとともに、学校施設の計画的な整備を推進していきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○幼保再編後の子育て支援の充実と地域との連携	
事業等	公立保育所・認定こども園・幼稚園の管理運営事業、 民間保育所事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【公立保育所・認定こども園・幼稚園の管理運営事業】							
	(入所児童数 4/1)	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
	下田保育所	1人	10人	15人	20人	22人	23人	91人
	認定こども園	0人	10人	17人	46人	59人	48人	180人
	下田幼稚園	—	—	—	12人	10人	11人	33人
	利用者負担金 36,888 千円（収入未済額 824 千円、不能欠損額 129 千円）							
	【民間保育所事業】							
	多様な保育推進事業補助金				11,694 千円（特財 4,137 千円）			
	待機児童解消特別対策事業費補助金				1,560 千円（特財 780 千円）			
	民間保育所給食費補助金				642 千円			
	民間保育所建設費償還事業補助金				2,100 千円			
	保育所運営費				157,084 千円（特財 89,327 千円）			
	利用者負担金 28,620 千円（収入未済額 1,523 千円、不納欠損額 172 千円）							
検証	<p>保育所（公立 1 園、民間 2 園）、認定こども園（公立 1 園）、幼稚園（公立 1 園）の体制で就学前児童の教育・保育を実施した。また、一時的な保育ニーズに対応するため、下田保育所において、緊急・リフレッシュ保育事業を実施した（利用者 29 人）。民間保育所に対し運営費の支出の他、乳幼児・障害児保育、途中入所サポート、給食主食費等に対する補助金の交付を行い、適正な運営体制の確保に努めた。利用者負担額（保育料）においては、平成 29 年度から実施している所得制限・年齢制限は設けず、3人以上の多子世帯に対し第 2 子半額、第 3 子以降の無料という市独自軽減措置を継続し、保護者の経済的負担の軽減を図り子育て支援の充実を図った。</p>							
今後の課題 方向性	<p>家族形態やライフスタイルの多様化に伴う教育・保育ニーズに応えるサービスの提供に努める。民間保育施設に対し、適切な運営体制の確保に向けた支援、指導を継続して行っていく。</p>							
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている						
	B	成果が上がって概ね良好に行われている						
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要						
評価に対する コメント	<p>保護者や地域の方々と連携し、適切な運営を実施することができた。今後も引き続き、就学前教育の充実を図っていきたい。</p>							

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○幼保再編後の子育て支援の充実と地域との連携	
事業等	子育て支援事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【地域子育て支援センター運営事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員1人・臨時職員2人体制、日数237日、利用者人員5,100人 ・交流の場の提供（開放）、子育て相談52件、支援センター通信の発行、講習等の実施14回、参加者446人（ベビーマッサージ、乳幼児救命講習、親子体操教室ほか）、地域子育て支援活動52回、参加者1,513人（おでかけ広場、発育測定他） <p>【ファミリーサポートセンター事業】</p> <p>登録まかせて会員50人、お願い会員54人、利用実績109件、3人</p> <p>【病児保育事業、実費徴収に伴う補足給付事業】</p> <p>年間利用人員 184人、病児保育事業補助金 6,135千円（特財4,595千円） 実費徴収に伴う補足給付（教材費・行事費等の実費徴収額の一部助成）11千円</p> <p>【中学生赤ちゃんふれあい体験、子育て支援ガイドブック】</p> <p>中学生赤ちゃんふれあい体験（2校で実施）、子育て支援ガイドブック発行</p> <p>【子育てお試しクーポン事業】 新規事業として未就園児家庭252件を対象に、子育てサービスに利用できる子育てクーポンを配布。利用率48.8%。</p>	
検証	<p>子育て支援センターでは、親子の交流の場の提供、各種講座の開催、子育て相談等を実施し在宅で子育てする保護者の孤立化、育児不安の解消を図り、地域の子育て支援の核として事業を推進した。保護者の就労と育児の両立を支援するため、ファミリーサポートセンターの運営を行ったほか、新たな施策として病気のため集団保育が困難な児童を一時的に預かる病児保育の実施、子育てサービスに利用できる子育てお試しクーポンの配布等を実施し、施策の充実を図った。また、民間団体や関係機関の協力を得て「下田子育て支援ネットワーク」を組織し、子育て支援ガイドブックの作成や中学生赤ちゃんふれあい体験を実施することで、地域・関係団体との連携強化、活動に携わるボランティア、青少年リーダーの育成を推進した。</p>	
今後の課題 方向性	<p>子ども・子育て支援事業計画に基づき、安心して子育てをできるよう各種事業の整備、充実を図る。</p>	
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コメント	<p>子育て世帯のニーズが多様化している中、子育て支援の更なる充実を図っていききたい。</p>	

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○教職員の資質と能力の向上に向けた研修の充実	
事業等	園内研修の実施、園外研修への派遣	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【園内研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修（定例職員会議）、テーマ別研修（発達支援、防災・安全対策、食育） <p>【幼保連携研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢別研修 <p>【園外研修への派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修（園長研修会、主任保育士研修会、教頭・主任研修会、初任者研修） ・課題に対応した研修（防災担当者研修会、発達障害療育支援専門講座、乳幼児研修会、食育研修会等） 		
検証	<p>園内研修では、テーマに沿った話し合いを行うことで職員の共通理解や実践力の向上につながっている。また、職員全員がそろって実施することが難しいため、テーマ別にグループに分けて行うなど効率よく研修できるようにしている。</p> <p>幼保連携研修では、保育所、幼稚園、こども園の担当年齢別のグループにより、当該年齢児の課題に沿った事例検討等を行い保育のあり方の共通認識を図り、相互理解を深めることで職員の意識、能力の向上に努めた。</p> <p>園外研修については、勤務年数や配置に応じて適切な職員を派遣するとともに研修成果をより広げるため、園内報告を実施している。また、園外研修参加に係る代替教諭等の配置を行い研修に参加しやすい体制づくりに努め、子どもの個性や発達状況に応じた教育・保育の質的向上のため、職員の研修環境整備を推進した。</p>		
今後の課題 方向性	園内、園外において園や教諭・保育士等の課題に応じた研修が計画的に実施できるよう研修体制を整え、研修機会の確保に努める。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	今後も効果的な研修を推進し、幼児教育・保育の質の向上に努めたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇施設・環境整備の推進	○認定こども園を核とした 施設・環境整備	
事業等	公立保育所管理運営事業、幼稚園管理事業等	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【公立保育所管理運営事業】 下田保育所給食室エアコン取替工事 1,176 千円、下田保育所ブロック塀撤去工事 1,292 千円、下田保育所フェンス設置工事 173 千円、下田保育所畳張替 477 千円、下田保育所照明器具取替修繕 192 千円、下田保育所他修繕 784 千円、平均台等備品購入 245 千円</p> <p>【認定こども園管理運営事業】 認定こども園昇降機修繕他 294 千円、物置購入 184 千円、平均台等備品購入 245 千円</p> <p>【幼稚園管理事業】 下田幼稚園給水加圧ポンプ取替修繕 687 千円、その他修繕 41 千円、下田幼稚園4歳児教室エアコン取替工事 1,029 千円、仲良し三輪車等備品購入 84 千円</p>		
検証	公立保育所、幼稚園の施設や設備の老朽化が進行する中、下田保育所の給食室エアコン取替工事、下田保育所0.1.2歳児クラス畳張替修繕、下田幼稚園4歳児教室エアコン取替工事などを実施し入所児童の保育環境の維持・管理に努め、就学前教育における環境整備、安心安全な環境づくりを推進した。		
今後の課題 方向性	安全・安心な教育・保育環境を確保するため、継続して各施設の維持管理や整備に取り組んでいく。また、津波浸水域内にある施設の更なる安全対策を検討、推進していく。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	計画的に修繕・整備等を実施し、良好な環境整備に努めたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○地域活動への参加や地域との交流を深める機会の充実	
事 業 等	青少年海の家管理運営事業、青少年健全育成事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○青少年海の家管理運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金（管理人）120 千円、光熱水費 73 千円、修繕料 57 千円（火災感知器修繕）、消防設備点検委託 98 千円 <p>○青少年健全育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成啓発用品 25 千円、青少年健全育成看板作成 14 千円 		
検 証	<p>青少年海の家は、施設の耐震性を考慮し、平成 24 年 4 月から宿泊制限を実施している。本来の目的である市内の児童生徒の利用はほとんどなく、地元区誘致の教育旅行（13 校 2,195 人）の利用が主である。平成 30 年度の利用状況は、市内利用者 615 人、市外利用者 2,406 人、計 3,021 人で、使用料収入 10,800 円であった。耐震工事など大規模工事は実施していないが、必要な小修繕を行いながら、施設の維持をしている。平成 29 年度より、貴重な戦前の木造校舎の活用について、地元区と継続協議している。</p> <p>青少年健全育成事業としては、下田市青少年健全育成連絡協議会を 2 回開催し、各地区育成会の事業報告・計画等を協議した。また、各キャンペーン（夏季非行・被害防止、冬季青少年健全育成、未成年者喫煙防止啓発）を行い、啓発グッズを配付し、市民意識の向上に努めた。各地区育成会に輪番で育成会標語看板の作成を依頼し、子どもたちの意識の向上に努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>青少年海の家は、耐震性がなく老朽化が進み、宿泊制限を実施する建物であるため、地元区の意向を聞きながら、施設のあり方について継続して検討していく。</p> <p>青少年の健全育成については、地域社会と青少年の関わりが希薄になっている中で、地域や学校、警察等の関係機関の協力が必要不可欠であるため、関係機関で情報を共有に努めていきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>青少年海の家は、施設の老朽化が進む中、施設自体を今後どのように利用活用していくか、地元区の意見を聞きながら検討する必要がある。また、青少年健全育成事業については、声掛けや見守りを通じて地域と青少年の関わりを関係機関と連携し、子どもたちの健全育成に努めていきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○文化や芸術、スポーツなどの青少年活動との連携	
事業等	青少年健全育成事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○講座開催状況		
	講座名		参加者
	親子ウォークラリー探検		11組 30人
	親子バックステージツアー		3組 7人
	親子漁船魚釣り教室		9組 20人
	・講師謝礼 102千円		
検証	<p>身近にある恵まれた自然環境と地域の特性を活かした体験的な講座を開設し、親子のふれあいの機会を創出した。</p> <p>親子漁船釣り教室に加え、平成 29 年度から新たにはじまった親子ウォークラリー探検、親子バックステージツアーを平成 30 年度も引き続き開催した。親子漁船釣り教室では、須崎漁協青年部の協力で、釣りの経験がなくとも、親子で海の仕事、地域の資源、環境保全について学ぶ機会の創出となった。また、親子ウォークラリー探検では、稲取高校被服食物部とボランティア部の協力もあり、防災食体験など親子で防災の知識を学ぶ機会にもなった。親子バックステージツアーは、8月の開催予定が台風の影響により、翌年2月に延期となったが、下田市民文化会館の舞台裏見学などによって、親子でイベントの運営に興味を持ってもらうと同時に、子どもたちの職業体験にも繋がる事業になった。</p>		
今後の課題 方向性	事業に参加することにより、子どもたちが多くの人とのかかわりを持ち、様々な体験ができるような事業の実施に努めていきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	ひきつづき、家庭、地域、学校と関係機関が連携し、下田の歴史や風土を生かした親子で楽しめる事業を実施していきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○家庭、地域、学校との連携を図った非行防止に向けた運動の推進	
事業等	青少年健全育成事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○補導の実施や育成会との連携を行い、青少年の健全な成長に関する取り組み ・青少年補導員報酬 306千円		
検証	<p>青少年補導センターで、各地区の祭典等を中心に、補導員による市内各地区の巡視を実施した。</p> <p>また、青少年の非行被害防止事業として、県内一斉街頭補導指導、店舗の立入調査及び街頭キャンペーンを実施し、青少年の健全育成のための協力を広く呼びかけた。キャンペーンには、下田警察署、女性の会、保護司会、更正保護女性会からも参加があり、関係機関と連携、情報交換しながら、非行防止を呼びかけることができた。</p> <p>補導員と育成会の合同研修を開催し、静岡県ケータイ・スマホルールアドバイザーを講師に、補導員30名、育成会18名計48名の参加があった。</p>		
今後の課題 方向性	年々子どもの数も減り、市内の中学校統廃合といったような環境の変化もある中で、今まで以上に家庭、地域、学校が連携をしていくことで、青少年の健全育成に務めていく必要がある。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	青少年の健全育成を推進するため、関係機関や地域と連携し、青少年の非行防止や青少年を犯罪被害から守るための活動を継続するとともに、スマートフォンや携帯電話関連の犯罪や非行防止についても引き続き積極的に取り組んでいきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○市民のニーズに合った学習プログラムの提供	
事 業 等	成人活動推進事業、公民館活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○各種学級の開設			
	名 称	対 象	延人員	内 容
	寿 大 学	高齢者	613	教養・健康・安全・歴史講座
	寿大学趣味クラブ	高齢者	312	カラオケ
	家 庭 教 育 学 級	P T A	2,222	12学級、親の役割と青少年の育成等
	水産・海洋学講座	成 人	77	県、大学の研究機関等による市民講座
	・家庭教育学級委託		180千円	
	・水産・海洋学講座講師謝礼		14千円	
	・公民館講座講師謝礼		99千円	
検 証	<p>高齢者を対象とした寿大学（11回）及び寿大学趣味クラブを開設した。また、県、大学の研究機関等による市民講座として、水産・海洋学講座を3回実施した。また、公民館ごとに講座を企画し11講座93回開催。</p> <p>各種事業及び講座には、幅広い世代からの参加があり、多くの市民の生涯学習の場所となっており、市民の生涯学習活動の推進になっている。</p> <p>幼稚園、小中学校PTAに家庭教育学級の実施を委託し、各種事業が学級ごとに実施され、家庭教育力の向上につながった。</p>			
今 後 の 課 題 方 向 性	各種事業・講座とも新規受講者を増やすためのPRや、下田の魅力を体験できる新たな講座の実施も検討していく。			
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている		
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている		
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要		
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	参加した受講者の満足度は高く、継続して受講する人が多いが、今後は、新たな受講者の獲得の工夫や新たな講座等の開設などを検討し、生涯学習の場の充実を図っていきたい。			

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○図書館ボランティアとの連携による 図書館サービスの充実	
事業等	図書館管理運営事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>○図書館ボランティアとの連携による取組</p> <p>おはなし会等 10回開催 (おはなしボランティア6グループ参加 延べ35人)</p> <p>ファーストブック 6回開催 (登録者6人 延べ19人)</p> <p>蔵書点検補助 3回 (登録者4人 延べ5人)</p> <p>書架整理 19回 (登録者1人 延べ19人)</p>		
検証	<p>ボランティアグループによるおはなし会等については、図書館員と一緒にを行い雑務等も担うことで、多くのボランティアグループに参加していただくことができた。その結果前回は、おはなし会8回、5グループのボランティア、おはなし会参加者161人であったが、今回は10回、6グループのボランティア、参加者328名となった。平成29年度に引き続き、大人対象の朗読会など、子どもから大人まで、おはなし会の対象年齢の幅も広がり図書館サービスの充実が図られた。</p> <p>職場体験については中学校3校6名の受入を行った。図書館の仕事を体験する中で、カウンターの仕事と本の保管管理以外の仕事もあることを知ってもらい、図書館の仕事や司書という職業に興味を持つきっかけ作りに貢献することができた。</p> <p>高校生等のボランティア受け入れについては、ボランティアの控室となる視聴覚室の空調設備の不具合や職員の配置など、受け入れ環境の整備が必要なことから昨年度に引き続き行うことはできなかった。</p>		
今後の課題 方向性	<p>1階貸出カウンターや事務室には、個人情報のセキュリティの関係から立ち入ることができないため、読書アドバイザーや読み聞かせボランティアグループと連携し、読み聞かせボランティア養成講座を開催することで、ボランティアのすそ野を広げる活動を行っていききたい。また、複数のボランティアグループによるおはなし会など、ボランティアグループ同士をつなげる活動も行っていきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	<p>今後ともボランティアと連携し、子どもから高齢者まで幅広く対象に、図書館サービスの充実に努めていきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○社会教育団体などの自主的学習活動の支援	
事業等	社会教育団体などの自主的な学習活動の支援	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	公民館や小・中学校施設（体育館、グラウンド）における使用料の減免措置を実施し、社会教育団体などの自主的な学習活動、体育及びリクリエーションの振興への支援を行った。		
検 証	社会教育団体などの公民館や小・中学校施設（体育館、グラウンド）使用について、減免措置を実施したことにより、自主的な学習活動への支援やスポーツを通じて体力の維持向上、技術の向上、心身の成長などにつながった。		
今後の課題 方 向 性	社会教育団体等の申請件数が増えるよう、生涯学習活動の推進に取り組んでいきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	今後も幅広く充実した生涯学習の活動推進に努めていきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇学習施設の再編、整備	○新たな図書館の建設	
事 業 等	図書館協議会等	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>令和3年度新庁舎移転、令和4年度中学校再編というスケジュールで施設整備が進む中、老朽化が著しい下田市立図書館の整備について、令和6年度新図書館建設工事を着工し、令和8年度新施設開館を目指すもの。</p> <p>平成30年度は図書館協議会にて視察1回を含む計5回の会議を開催し、1年間かけて新図書館のあり方について検討し、「これからの図書館のありかた」について図書館協議会の考えをまとめた。</p>		
検 証	<p>人口減少、少子高齢化、情報通信技術の進歩など、図書館をとりまく社会情勢の変化、それに伴う図書館の役割の多様化をふまえて、さまざまな意見をいただき検討することができた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>令和元年度には、庁内で連携して行政的立場から図書館整備について検討するため、庁舎内にて検討委員会を組織し、場所や規模等について検討したい。</p> <p>また、令和2年度に新図書館基本構想の策定ができるよう、予算措置等準備を行い、次年度には市民に対し、これからの図書館の役割や図書館の必要性について理解を深めるための市民向けワークショップや講演会等開催したい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>「下田市公共施設等総合管理計画」に基づき全庁的な検討をするとともに、計画との整合性を図りつつ、持続可能な図書館のあり方について、図書館の施設、サービス、運営などについて協議を進めていきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇学習施設の再編、整備	○地域の実情に見合った公民館の再編整備	
事業等	公民館管理運営事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○公民館利用状況						
	公民館名	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
		件数	利用人数	件数	利用人数	件数	利用人数
	中央公民館	1,819	21,995	1,857	22,790	1,276	14,851
	本郷公民館	264	2,797	260	2,809	206	2,589
	中公民館	240	3,975	287	5,009	239	4,493
	稲生沢公民館	443	4,340	500	6,161	456	4,786
	朝日公民館	253	3,594	284	5,161	222	3,466
白浜公民館	175	2,744	162	3,625	206	4,668	
合計	3,194	39,445	3,350	45,555	2,605	34,853	
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金（管理人）1,699千円 ・修繕料 1,737千円＋災害復旧106千円 ・特殊建築物定期調査業務委託 219千円 ・借地料 90千円 ・光熱水費 3,727千円 ・工事費 3,165千円 						
検証	<p>修繕・工事については、優先順位をつけて修繕及び工事を実施し施設の維持管理をしている。中央公民館の屋上の防水修繕、管理人室の漏水修繕、小中会議室の空調機の更新工事、朝日公民館のブロック塀撤去工事他6件の修繕を実施し、利用者の安全と利便性の向上に努めた。</p> <p>公民館統廃合については、地元区代表への説明を実施し、年度中に各地区での方針をまとめてもらうよう依頼した。各地区の方針は、朝日公民館と稲生沢公民館の2館については地元区では公民館を譲り受けないと決定し、中・白浜・本郷公民館については、年度内の方針決定ができず、次年度以降早急に方針を決定することとなった。公民館運営審議会を4回開催し、進捗状況を説明した。</p>						
今後の課題 方向性	公民館統廃合について、地元区との協議を進め、基本方針に沿って統廃合を進めていく。また、存続する中央公民館のあり方について検討していきたい。						
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている					
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている					
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要					
評価に対する コメント	公民館の管理運営については、概ね良好に執行されている。統廃合については、すでに公民館を廃止した地区との平等性を保つよう、地元区との協議を進め、継続して統廃合を推進していきたい。						

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化施設の整備	○市民文化会館などの施設の改修	
事 業 等	市民文化会館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○市民文化会館の管理運営 ・市民文化会館指定管理料 74,920 千円 ・修繕料 2,717 千円		
検 証	平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 30 年度より 3 か年の期間で公益財団法人下田市振興公社を指定管理者に指定している。 指定管理者により多彩な文化事業が実施されており、平成 30 年度は、クラシックコンサート、太鼓のつどい、下田吹奏楽祭等 20 事業が開催され、延べ 9,026 人の入場者があった。また、貸館事業の年間利用者は、106,631 人であった。指定管理者による自主事業、貸館事業ともに前年度を上回る利用者数であった。 毎年約 10 万人の利用者があり、伊豆半島南部の文化拠点として定着しているが、建築から 30 年が経過し、建物本体の一部をはじめすべての機器が耐用年数を大幅に過ぎた状態になっている。平成 30 年度は、修繕については、吸収式冷温水器 NO.2 号機冷温水出口部溶接修繕、大会議室音響システム修繕、電気時計設備修繕を実施した。また、備品として故障していた移動用音響機材（ミキサー、パワーアンプ）を購入し、利用者の安全と利便性の向上に努めた。		
今後の課題 方 向 性	建築から 30 年が経過し、設備全般にわたり老朽化が顕著になってきているため、円滑な運用、利用者の安全と利便性の向上のため、修繕計画に沿って計画的に改修を行いたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	修繕計画に沿って、計画的な改修ができるよう予算確保に努め、利用者の安全を確保し、魅力ある施設づくりを努めていきたい。 建築から 30 年が経過したことから、大規模リニューアル改修についても検討を進めていきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化・芸術活動の活性化	○文化事業や講座の開催 ○自主的な文化活動への支援	
事業等	芸術文化振興事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○文化事業や講座の開催 <第 63 回下田市芸術祭の開催>																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部門</th> <th>開催日</th> <th>入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期展示</td> <td>11 月 2 日～4 日</td> <td>797 人</td> </tr> <tr> <td>後期展示</td> <td>11 月 9 日～11 日</td> <td>927 人</td> </tr> <tr> <td>邦楽・邦舞部門</td> <td>11 月 4 日</td> <td>349 人</td> </tr> <tr> <td>洋楽・洋舞部門（第一部）</td> <td>11 月 11 日</td> <td>700 人</td> </tr> <tr> <td>洋楽・洋舞部門（第二部）</td> <td>〃</td> <td>192 人</td> </tr> <tr> <td>俳句大会</td> <td>11 月 3 日</td> <td>16 人</td> </tr> <tr> <td>将棋大会</td> <td>11 月 11 日</td> <td>50 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・下田市文化協会文化振興事業（芸術祭） 250 千円</p>			部門	開催日	入場者数	前期展示	11 月 2 日～4 日	797 人	後期展示	11 月 9 日～11 日	927 人	邦楽・邦舞部門	11 月 4 日	349 人	洋楽・洋舞部門（第一部）	11 月 11 日	700 人	洋楽・洋舞部門（第二部）	〃	192 人	俳句大会	11 月 3 日	16 人	将棋大会	11 月 11 日
部門	開催日	入場者数																								
前期展示	11 月 2 日～4 日	797 人																								
後期展示	11 月 9 日～11 日	927 人																								
邦楽・邦舞部門	11 月 4 日	349 人																								
洋楽・洋舞部門（第一部）	11 月 11 日	700 人																								
洋楽・洋舞部門（第二部）	〃	192 人																								
俳句大会	11 月 3 日	16 人																								
将棋大会	11 月 11 日	50 人																								
検 証	○自主的な文化活動への支援 生涯学習課所管施設（公民館や文化会館等）における使用料の減免措置をし、自主的な文化活動への支援を実施。 下田市文化協会と共同で広報活動の強化を図り、5 月と 10 月を「自由開放の月」と題し、新規会員の獲得や体験入会の強化月間として、かいらん発行日に合わせてチラシを作成し配布した。																									
	第 63 回下田市芸術祭を下田市文化協会、下田市振興公社、下田市教育委員会の 3 者で組織した執行会をもとに開催し、前年を若干下回る入場者数であった。 その他、年 1 回の会報の発行や、第 28 回黒船祭美術展覧会の開催など、市内芸術活動の発展向上、普及に寄与している。 各文化・芸術団体の生涯学習課所管施設使用について、減免措置を実施したことにより、自主的な文化活動への支援につながった。																									
今後の課題 方 向 性	下田市文化協会と連携し、幅広い文化・芸術活動の推進を行い、新たな世代に活動が広がるよう啓発に努めたい。																									
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている																								
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている																								
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要																								
評価に対する コ メ ン ト	文化協会と協力して、すでに定着した定例の事業に加え、文化協会への加盟の促進、幅広い世代の会員の増加につながるよう新たな取組みを検討していきたい。																									

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化財の保存、継承と活用	○国、県、市の指定文化財の保存と活用 ○民俗芸能などの地域文化の継承 ○埋蔵文化財の保護・保全	
事業等	芸術文化振興事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>○国、県、市の指定文化財の保存と活用</p> <p><文化財保護審議会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会委員報酬 40千円 <p><吉田松陰寓居処管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金(管理人) 1,392千円 ・光熱水費等 42千円 <p><下田城址地形測量業務委託></p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託料 3,564千円 <p><歴史講座></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5回の連続講座「南豆の歴史を後世に」を実施(延べ163人の参加) <p>○民俗芸能などの地域文化の継承</p> <p><平成30年度伝統文化親子教室事業申請事務補助(文化庁補助金)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請団体:2件(下田書道会、日本将棋連盟 下田支部) <p>○埋蔵文化財の保護・保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地の照会:27件 		
検証	<p>文化財に関する報告事項や協議事項が生じた際は、適宜、文化財保護審議会を開催し委員からの助言を受け、文化財の保護保存に努めた。</p> <p>連続講座「南豆の歴史を後世に」を実施し、市内のみならず他市町からの参加者もあり、幅広い年代の参加者があった。</p> <p>市指定史跡下田城址の地形測量業務を実施し、遺構の保存状況について把握した。</p>		
今後の課題 方向性	指定文化財等の所在確認を行い、所有者への適切な管理についても指導していく。文化財等の保護保存に努め、活用についても検討する。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	指定文化財等の所在確認を、保護と管理、地域文化の継承に努めていきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇郷土資料の保存、継承と活用	○郷土資料の保存や研究と市史編纂事業の実施 ○郷土の文化財などの学習活動への支援	
事 業 等	市史編さん事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○ 下田市史編さん事業</p> <p>『図説年表（仮）』、『資料編 4』近現代、『通史編（上）』考古・古代・中世・近世、『通史編（下）』近現代の刊行に向け、資料収集、資料調査、原稿作成等。</p> <p>・臨時雇賃金（市史編さん補助）1,107 千円、 報償費（市史編さん委員の調査活動等謝金）2,448 千円</p>		
検 証	<p>刊行予定の書籍の資料収集、資料調査や執筆の進捗状況について、市史編さん委員と打合せを行いながら、刊行時期の調整を行った。</p> <p>学術的要素が強く、専門性の高い資料編のほか、市民向けの書籍を出版し、後に出版される通史編をより理解できるよう、図説入り年表の出版を予定に加えた。</p>		
今後の課題 方 向 性	早期の『通史編』の刊行を行いたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>早期の通史編の刊行に努め、各分野で収集・解読した貴重な資料をわかりやすく市民に知ってもらう機会やまちづくりに活用できる方策についても検討していきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇施設の有効活用	○学校施設の一般開放	
事 業 等	保健体育総務事務	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○市民の体育及びレクリエーションの振興を図るため、下田市が設置する小学校及び中学校の施設（体育館、グラウンド）を開放し、各スポーツ団体に活動場所を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費 641 千円 ・修繕料 699 千円 		
検 証	<p>平成 30 年度の利用状況は、体育館 2,228 件 30,671 人、グラウンド 341 件 5,672 人であった。利用団体は児童から老人クラブまで幅広く、多くの利用者の体力の維持向上、技術の向上、心身の成長などにつながった。</p> <p>修繕については、下田中学校グラウンド修繕等を実施し、利用者の安全に努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>競技スポーツの振興、スポーツ関係団体の育成を図るため、施設の適正な維持管理を行っていききたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>今後も、多くの利用者が安心安全に施設利用できるよう、適切な管理運営に努めていきたい。</p> <p>中学校統合後の施設の活用についての検討を進めていきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 30 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇施設の有効活用	○利用者のニーズに応える施設整備	
事 業 等	下田市民スポーツセンター管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○下田市民スポーツセンター管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下田市民スポーツセンター指定管理料 21,422 千円 <p>○吉佐美運動公園管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉佐美運動公園管理業務委託 972 千円 ・ 光熱水費 159 千円 ・ 修繕（防風フェンス） 649 千円 		
検 証	<p>下田市民スポーツセンターは、平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 30 年度より 3 か年の期間で公益財団法人下田市振興公社を指定管理者に指定している。</p> <p>体育館を中心とした市民の健康施設として、多機能に利用されており、平成 30 年度の利用状況は、2,352 件 66,522 人、利用料収入は、4,142 千円であった。</p> <p>吉佐美運動公園の管理は、エルダーの会に委託し、平成 30 年度の施設の利用は、軟式野球、グラウンドゴルフを中心に 168 件 6,493 人であった。</p> <p>児童から高齢者まで広く使われる施設であり、市民の健康増進、競技技術の向上などに繋がっている。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>下田市民スポーツセンターについては、施設の老朽化により、修繕を必要とする箇所が次々控えている現状である。利用者の安全と利便性の向上のため、修繕計画に沿って計画的に改修を行いたい。</p> <p>吉佐美運動公園については、今後も適正な維持管理に努め、利用しやすい公園として整備していきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>今後も、多くの市民が安心安全に施設利用できるよう、適切な管理運営と市民サービスの向上に努めていきたい。</p>		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇スポーツの振興	○市民が気軽に参加できるスポーツイベントの開催	
事業等	社会体育活動推進事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○各種イベント		
	グラウンドゴルフ大会	参加者 137名	
	ふれあい広場（軽スポーツ）	参加者 151名	
	第47回下田・河津間駅伝競走大会	参加チーム 81チーム	
検証	<p>下田市スポーツ推進委員会を中心に、市民が広くスポーツを楽しむ機会、健康づくりの場を創出している。</p> <p>また、各種団体と協力し、下田・河津間駅伝競走大会等のスポーツ事業を行った。</p>		
今後の課題 方向性	<p>スポーツの振興のため、多くの世代が参加できる新たなスポーツ教室などの検討を行いたい。</p> <p>オリンピック・パラリンピックの開催に向けて機運の醸成をはかっていきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	グラウンドゴルフのように、広く市民に愛され、浸透するような新たなスポーツ教室の開催に向け検討していきたい。		

令和元年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成30年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇スポーツの振興	○NPO法人などと連携した 総合的なスポーツの振興	
事業等	社会体育活動推進事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	○下田市スポーツ祭委託 169千円 ○下田市体育協会補助金 155千円 <13団体> 陸上競技協会、サッカー協会、テニス協会、バレーボール協会、野球連盟、水泳協会、グラウンドゴルフ協会、ソフトテニス協会、ビーチバレー協会、弓道連盟、ゴルフ連盟、合気会、バスケットボール協会 ○静岡県市町対抗駅伝大会補助金 1,303千円		
検証	競技スポーツの振興、関係団体の育成を図るため、下田市体育協会に委託し、下田市スポーツ祭を開催した。 H30.12.1開催の第19回静岡県市町対抗駅伝競走大会に参加するため、下田市実行委員会を組織し、選手候補の指導から大会終了までの事業補助を行った。		
今後の課題 方向性	下田市体育協会の加盟団体は、競技人口の多いスポーツが主となっているため、今後はマイナースポーツの振興についても積極的に支援していきたい。 市町対抗駅伝競走大会への選手候補者獲得ため、新たな方法を検討したい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	下田市体育協会との連携について、メジャースポーツだけでなくマイナースポーツも対象に加盟団体を増やし、様々な競技の活動を推進していきたい。		

6 有識者委員会

下田市教育委員会の点検・評価に対する学識経験者等による知見の活用については、令和元年11月7日に下田市教育委員会の点検評価に関する有識者委員会を開催しました。

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	進 士 司	学校関係者 (元学校長)
副 委 員 長	高 寺 輝 行	学校関係者 (元学校長)
委 員	佐 野 晃 一	学識経験者 (公認会計士)
委 員	横 山 静 子	学識経験者 (下田市女性の会)

7 有識者委員会の意見

平成30年度事業の点検評価は、下田市教育大綱に位置付けられた6つの目標のうち、教育委員会の内部評価を経た37事業について実施しました。

教育委員会の内部評価のうち、37事業中35事業を「成果が上がって概ね良好に行われている」、2事業を「成果が十分に上がっておらず改善が必要」と評価されました。

点検評価に際しては、下田市教育委員会から提出の自己点検・評価シート、主要な施策の成果等の資料を基に担当課長及び係長からの説明並びに教育委員からの補足説明を聴取し、質疑応答を行いました。

有識者委員会としては、各事業の点検・評価シートにおいて、各事業について高く評価する点や今後の改善が期待される点などを指摘しましたが、全体的には概ね良好な実施状況であるとして評価しました。

今後も、下田市教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、市長と教育委員会との連携の強化を図り、下田市教育大綱における本市の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり」』の推進に努めていただきたい。

教育大綱の6つの目標ごとの意見要旨は、以下のとおりです。

【目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。】

- ・現場の先生は多忙化ということで、細かな教材研究等といったものが疎かになっているように思う。市研修主任研などを通じ、授業づくりの研修、年配の先生方や同僚と切磋琢磨する姿勢といったものをぜひ育てていただきたい。
- ・幼保こども園、小中高の連携は非常に重要である。
- ・就学支援関係では、校内就学支援委員会が重要であり、学年部など先生方全員の意識向上に繋げてほしいとともに、学校が一つにまとまって対応することが重要である。
- ・玉川大学との連携について、継続を希望するとともに、英語教育だけでなく、学生を通じたキャリア教育も学ばせることも重要である。
- ・いじめ問題について、大津市ではいじめ事案をAIで解析し、今後どれ位エスカレートするか等の未然防止に活用している。下田市においても、未然防止等の対策について、いじめ問題対策連絡協議会等を通じ、

しっかりとした対応をお願いしたい。

- ・中学校再編整備事業は、これまで非常に計画的に進められており、静岡県東部、伊豆半島の先駆的な事例として、他の地域からも注目されている事業だと思う。ぜひしっかりとした検討をしていただき、より良い成果を残していただきたい。

【目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。】

- ・就学前教育は場所の提供が重要だと感じる。ぜひとも県内外問わず、先生方が多くの研修へ積極的に参加させていただきたい。そして、研修参加した先生が各園や地域で学んだことを伝達することも非常に重要である。

【目標3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。】

- ・青少年健全育成事業の講座数が少ないため、市教委が先導して各種団体に掛け合い、親子で楽しむ多くの講座をぜひとも開設していただきたい。
- ・今後、中学校統合により、子どもたちの遊びや交流の広域化が進むため、そういった点を踏まえた事業展開をお願いしたい。

【目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。】

- ・各種講座への参加者が減少している中で、また高齢化により難しいと思うが、先進事例を参考にしながら、受講生の中から指導者の育成ができるようにしていただきたい。
- ・公民館利用者数について、昨年と比較すると約1,100人減少している。また、今後、公民館の廃止計画により中央公民館だけになる中で、公民館活動をどのように推進していくのか、懸念事項だと思う。

【目標5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。】

- ・特に意見等なし。

【目標6 市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。】

- ・体育館などの学校施設は今後老朽化していくため、少しでも長く使用できるよう利用者の使い方等、指導的なものを考慮していただきたい。
- ・浸透していくような新たなスポーツ教室の開催に期待したい。

8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱

平成21年7月27日教育委員会告示第9号

(設置)

第1条 下田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する、事務・事業の管理及び執行の状況についての点検・評価を行うことで、地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務・事業の管理及び執行状況についての透明性の確保と市民への説明責任を果たすため、下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施する事務・事業の点検評価に関すること。
- (2) その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に関する識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

- 2 委員長は、必要に応じて会議に委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。
- 3 委員会の会議は、原則として公開とする。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、公示の日から施行する。
- 2 第3条第3項本文の規定にかかわらず、初回の委員の任期は、平成23年3月31日までとする。

令和元年度(平成 30 年度実績事業)
下田市教育委員会自己点検・評価報告書

発行日 令和元年(2019年)11月

発行 下田市教育委員会

〒415-0024 静岡県下田市四丁目6番16号

TEL 0558-23-3929 FAX 0558-23-5176

E-Mail s-kyoui@city.shimoda.shizuoka.jp